

島根・大坪遺跡

おおつば

山陰道の痕跡を検出するにはできなかつた。ただ、調査区中央付近で堆積土層の大きな変化を確認できたことから、そのあたりに条里の境界があつた可能性は高いと思われる。

- 1 所在地 島根県松江市山代町・大草町
2 調査期間 一九九九年（平11）一月～二〇〇〇年一月
3 発掘機関 松江市教育委員会・財松江市教育文化振興事業団
4 調査担当者 江川幸子
5 遺跡の種類 条里ほか
6 遺跡の年代 弥生時代～一二世紀頃
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



本調査は市道真名井神社線道路改良工事に伴うものである。調査対象地は松江市の南東部にあたり、茶臼山の東南麓に広がる水田地帯に位置する。調査面積は約九四〇m²である。

調査地は出雲国府跡から北西五〇〇mの地点で、古代山陰道ルートの最有力候補地である。しかし、遺構は弥生土器を多量に含む旧河道と、一二世紀頃と推察されるピットのみで、古代

- 8 木簡の釈文・内容
(1) 「恐々謹解□□□
(2) 又進□
(3) □〔歴カ年カ〕
(67)×(15)×4 081

(138)×33.5×8 019

(1)は上端が原形をとどめているが、左右から段違いに刃を入れているため端部は「」状を呈している。下部は欠損しており、裏面は未調整である。墨痕は肉太の文字が明瞭であるが、現時点では最初の四文字しか判読できていない。
(2)は上下端を欠損しており、左側は割れている。墨痕は不明瞭で、赤外線テレビカメラ装置を利用してからうじて肉太の二文字が判読できた。
(3)は上下端を欠損しており、右側は割れている。墨痕は不明瞭で、

赤外線テレビカメラ装置を利用して、文字の判読は不可能であった。

なお、本木簡の判読にあたっては、奈良国立文化財研究所の館野和己氏・渡辺晃宏氏・吉川聰氏、関東学院大学の田中史生氏、島根県立博物館の平石充氏、島根県埋蔵文化財調査センターの熱田貴保氏からご教示、ご協力いただいた。

(江川幸子)



(1)

島根・喜時雨遺跡



(津和野)

1	所在地	島根県鹿足郡津和野町大字田二穂
2	調査期間	一九九八年（平10）七月～二月
3	発掘機関	津和野町教育委員会
4	調査担当者	宮田健一
5	遺跡の種類	集落跡
6	遺跡の年代	一二世紀後半～一八世紀
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	

喜時雨遺跡は津和野城の西麓、中世津和野城の大手口があつたと伝えられている地区にある。遺跡の主体は中世武士団の集落跡と考

えられ、この地域の領主となる吉見氏^{よしみ}が津和野城周辺に館を移したと伝えられて
いる嘉暦二年（一二三二七）
以降の遺構と、それ以前の
在地領主層による遺構の大
きく二時期に分けられる。

木簡は、集落の縁辺部に
相当する調査区北西隅の木